

【補足資料1】

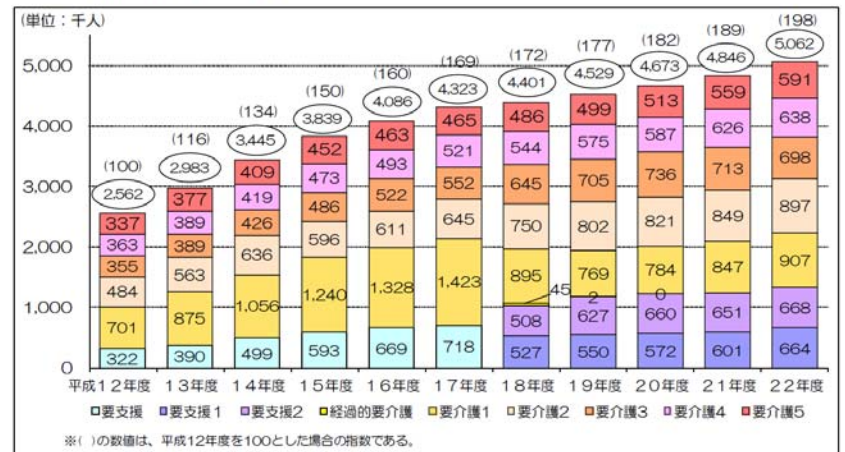
■ 要介護認定者の増加

高齢化に伴い、要介護認定者の数は、10年間で約2倍に増加しています。同時に、介護保険給付額も大幅に増大しています。要介護状態になることを予防、あるいはそういった状態を回復するために、各自治体ではさまざまな「介護予防事業」に取り組んでいます。

要支援状態となるきっかけとして、高齢による衰弱や骨折・転倒などが原因で、体を動かさなくなり、心身の機能

が低下するケースが多いことが分かっています。それを予防するためには、日頃から体を動かし、体力や運動機能を維持することが大切であると考えられています。そこで、公園を高齢者のための運動の場として活用することが検討されています。

要介護認定者数の推移



出典元：厚生労働省「平成22年度 介護保険事業状況報告(年報) 概要」

■ 社会実験 運動教室の流れ

体調管理と説明 (15分) → 準備体操 (20分) → 健康遊具(※1)での運動 (30分)
 → 休憩 (5分) → グループでの軽運動 (15分) → いきいき体操とめ (10分)
 → 整理体操 (10分) → 体調確認と次回の連絡 (15分)

(※1) 使用する健康遊具 (コトブキ製)

身体機能の衰弱を防ぎ、日常の活動動作(ADL)を維持することを目的とした高齢者向け健康遊具です。使い方を想像しやすいデザインや、楽しく運動するためのゲーム性を備えています。



背のばしベンチ



ぶらぶらストレッチ



バランス円盤



ダブル踏み台昇降



ポートこぎ



腕のばしテスト



往復何秒テスト

■ 桜美林大学 加齢・発達研究所

加齢・発達研究所は、学術的研究機関として桜美林大学大学院老年学研究科の教育と関連して高齢者問題に関する学際的調査研究などを行い、学術および教育の促進を図ることを目的としています。今回「屋外型高齢者遊具の利活用に関する研究」にあたっては、同研究所所長の芳賀博教授と、東北文化大学大学院の植木章三教授が、調査・検証を行っています。

● 芳賀 博（ハガ ヒロシ） 所長

研究テーマ：生活機能の維持・増進、介護予防、高齢者の社会貢献

● 植木 章三（ウエキ ショウゾウ） 東北文化学園大学大学院（加齢・発達研究所 客員研究員）

研究テーマ：新たな介護予防運動プログラムの提案と普及による効果の検証に関する研究

桜美林大学加齢・発達研究所

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758 TEL&FAX: 042-797-9774 URL: www7.obirin.ac.jp/kareiken/

■ コトブキの健康遊具における取り組み

コトブキでは、ベンチや遊具などの屋外公共施設向け製品の製造に長年携わる中で、そのノウハウを活かし、早くからフィットネス製品の開発・製造に取り組んでまいりました。

- 1982年 総合フィットネスシステム「ヘルスビート」発売
気軽に体を動かせる「ストリートアスレックス」発売
- 1984年 省スペースフィットネスシステム「フィットコア」発売（※現在は取り扱いなし）
- 1988年 小学生向けフィットネス「マイ・フィットネス」発売（※現在は取り扱いなし）
- 2003年 高齢者向け健康遊具「エルフィット」発売
- 2006年 高齢者向け健康遊具「エルウェル」発売
「ストリートアスレックス」リニューアル
- 2010年 本格的な屋外フィットネスシステム「ワークアウト」発売

■ 株式会社コトブキ 概要

会社商号	株式会社コトブキ
代表者	代表取締役社長 深澤 幸郎
本社	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1丁目 2番 1号
創立	大正 5(1916)年 8月 5日
資本金	1億円
事業内容	公共施設/家具事業、都市景観事業、遊具事業、サイン事業、屋外向け家具事業における開発、設計、製造、販売ならびにこれらの輸出入
従業員数	310名
関連会社	株式会社コトブキタウンスケープサービス、株式会社ジースタジオ